

研究倫理映像教材「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」の オンライン公開について

JST（理事長 橋本 和仁）は、研究倫理映像教材「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」を制作し、JSTのホームページに公開しました（別紙）。

JSTは、資金配分機関として、研究公正の普及啓発を行っています。また、研究機関における研究倫理教育の推進が図られるよう、日本の研究現場における研究不正行為の現状を踏まえ、映像を活用したドラマ形式の双方向型教材「倫理の空白」シリーズを制作しています。1作目は、准教授と学生の異なる視点から描く「理工学研究室編」、2作目は、人文・社会科学系と自然科学系それぞれの研究室を舞台にした「盗用編」を制作しました。

シリーズ3作目となる今回は、疑わしい研究行為（QRP: Questionable Research Practice）を取り上げます。QRPとは、不正行為につながりかねない問題を含むグレーゾーンの研究行為のことです。具体的な例として、同じ研究成果の重複発表（二重投稿）、論文著作者が適正に公表されない不適切なオーサーシップ、研究記録の不適切な管理といったものが挙げられます。これらは不正行為につながるもので、研究プロセスへの信頼を損ねる可能性のある行為です。

QRPは、研究分野を問わず、研究に携わる多くの方々にとって関心が高いテーマとなっていることから、今回のストーリーは、幅広い分野の研究者が当事者意識を持つことができるよう、人文・社会科学編と自然科学編の2編を制作しました。QRPには、さまざまな類型がありますが、このドラマでは、主なテーマとして二重投稿、不適切なオーサーシップ、自己盗用、サラミ出版に焦点を当てるほか、データ管理も取り上げています。

人文・社会科学編では、ある研究室のメンバーが研究データの管理やオーサーシップなどの問題に直面します。また、研究室をマネジメントする立場の教授にも研究倫理上の問題が生じ、教授も自身の研究行為や指導の在り方を振り返ることになります。

自然科学編では、研究倫理教育や論文投稿の指導に熱心な准教授と、その研究室の学生に、自身の過去論文に対する研究倫理上の問題が持ち上がります。准教授と学生の双方が過去の研究行為に向き合う姿が描かれています。

本教材は、いずれのストーリーにおいても、主に研究室主宰者（PI）など、研究を指導する立場にある研究者を教育対象者として想定しています。マネジメントする側として自身の研究行為や指導を振り返り、研究者としてのあるべき姿を考えることを目的としています。また、学生や若手研究者が視聴する場合は、指導者がどのような背景や考えを持っているのかなど、指導者の立場を疑似体験しながら、疑わしい研究行為を自分事として捉えることができる教材です。

これまでの2作品と同様、ドラマならではのリアリティーあふれる映像により、研究倫理上の問題を含んだ状況を疑似体験することで、視聴者が主体的に考え、責任ある研究活動を行うための判断力を養うことができます。

eラーニングやテキストといった知識習得型教材とは異なり、研究倫理上の問題に直面した具体的な場面を想定しながらの議論が可能ですので、ドラマの視聴とディスカッションを組み合わせたワークショップやグループワークで活用することが最も効果的です。

大学での講義や研究機関での講習など、さまざまなシーンでの活用も可能です。本教材が各研究機関における研究倫理教育の一助となり、研究不正を防止し、責任ある研究活動の推進に資することを期待しています。

研究倫理映像教材「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」の映像は、以下のJSTホームページからご覧ください。

URL : https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie_gapinethics3.html

<添付資料>

別紙：JST研究倫理映像教材「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」（人文・社会科学編／自然科学編）

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 法務・コンプライアンス部 研究公正課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

成重 隆也（ナリシゲ タカヤ）

Tel : 03-5214-8390 Fax : 03-5214-8393

E-mail : [rcr-eizo\[at\]jst.go.jp](mailto:rcr-eizo[at]jst.go.jp)

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

JST研究倫理映像教材
 「倫理の空白Ⅲ 研究活動のグレーゾーン」
 (人文・社会科学編／自然科学編)



1. ストーリー

<人文・社会科学編>

南鷹（なんよう）大学の池田研究室では、所属する学生が思い思いの研究テーマで論文執筆に励むなか、それぞれの研究室メンバーが研究データの管理やオーサーシップ、二重投稿といった研究倫理上の問題に直面します。

大学院生の佐々木は、池田教授の指導方針のもとで論文を投稿しますが、その論文に二重投稿の疑いが生じます。佐々木は池田教授に相談しますが、池田教授から適切な指導助言を受けることができるのでしょうか…。また、大学院生の山口は、池田教授の論文に自己盗用の疑いがあることに気がきますが、このことを自分の指導教員の立場にある教授に告げるべきかどうか悩みます。

池田教授は、研究室メンバーには積極的に論文を書いて研究成果を出すよう指導してきましたが、指導者として、これまでの研究行為に研究倫理上の問題はなかったのかなど、あるべき研究者の姿を振り返ります。

<自然科学編>

学生思いの指導者・駿星（しゅんせい）大学の藤田准教授は、研究倫理教育や論文投稿の指導を熱心に行ってきました。藤田研究室では研究倫理を学ぶ機会には十分にあるはずですが、研究室メンバーの大学院生の加藤は、自身の過去論文に引用漏れがあることに気づき、どうすべきか悩みます。そんなある日、藤田准教授の過去論文にサラミ論文疑惑が持ち上がります。突然の事態に困惑する藤田准教授は、周囲のスタッフや恩師の教授へ相談し、自らが行った過去の行為を振り返ります。

学生の立場の加藤も、指導者の藤田准教授も、自身の過去の研究行為を通じ、研究倫理上の問題を含む状況に向き合います。

2. 公開サイト

https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie_gapinethics3.html

3. 視聴時間

人文・社会科学編：約35分 自然科学編：約32分



談笑する研究室のメンバー（人文・社会科学編）



実験中の藤田准教授（自然科学編）